



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学同窓会報

創刊号

平成25年10月20日 発行
四日市看護医療大学同窓会事務局



ごあいさつ

四日市看護医療大学同窓会会長 平成22年度卒業 近藤 あおい

今回四日市看護医療大学同窓会の会報を制作させていただくに当たり、ご挨拶させていただきます、1期生の近藤です。

私たち1期生は東日本大震災の年に新社会人となり、今年で3年目になっています。そして今年は猛烈な猛暑、それに続く残暑、河川の増水による洪水、突風などの異常気象などに見舞われ、たくさんの犠牲者が出ています。私たちの身近な地域でもそういった災害、異常気象が起こりうる可能性は十分にあります。災害の起こっている地域でも、そうでない地域でも私たち医療者に何ができるか考えていきたいと改めて感じています。

さて、四日市看護医療大学同窓会の活動としては、現在晩学園同窓会役員会への参加、同窓会会費の管理を実施しています。今後5期生までを集めた同窓会も企画していきたいと考えています。具体的にはまだ2年後に行うということしか決まってはいませんが、今後内容を企画していくうえで、何かご要望やご意見がありましたら、各学年の同窓会役員にご連絡いただくと嬉しく思います。

今後も皆様にはこういった会報という形で同窓会の活動や、大学の情報などをお伝えしていければと考えています。そのために、会報に同封して住所変更等のご連絡の異動通知はがきを付けさせていただいております。お住まいのご住所の変更がありましたら、再登録をよろしくお願ひします。

それでは2年後に皆様に直接お会いできることを楽しみにしています。



卒業生の皆様！ お元気ですか

宮崎 徳子 教授



いよいよ同窓会が発足をしましたね。
医療、保健、助産とそれぞれの実践の現場で、生き生きと活躍されたり、落ち込んだり、励まし励まされたり、悲喜こもごもの実践をされていらっしゃる姿が、目に浮かびます。私たち教員も同様に教育と研究に、学生とともに悪戦苦闘をしたり、秋空のすがすがしさのような気持ちになったり、教育の現場にいることの喜びを、堪能しております。

開学以来、6年間の歳月が過ぎました。皆様が残された礎を後輩たちが確実に踏み固められるように、わが大学の発展を見守り続けてきました。1回生の卒業記念である庭の時計は確実に時を刻んでおり、2回生の卒業記念の照明灯は明るい明日を教えてくれております。3回生のコピー機は学生の学習を確実に助けてくれております。1つずつ皆様の痕跡は後輩たちの成長を指し示してくれております。四日市看護医療大学の歴史が積み重ねられ、発展していく様をしっかりと支えていきたいと祈念しているこの頃です。

みなさん、 お元気ですか。

萩 典子 准教授



お元気でお過ごしでしょうか。秋の気配が感じられる季節となりましたね。毎日大変忙しくお過ごしのことと思います。現場で働く中で、皆さんは日々奮闘していることでしょう。嬉しさや、充実感、悲しさ、疲労感、焦燥感などいろいろな感情が入り混じって、時にはネガティブな気持ちでいっぱいになり身動きがとれなくなる時もあるかもしれませんね。大学は、また新しい学年の領域別実習が始まる季節になりました。皆さんが少し緊張しながらも目を輝かせ実習に取り組んでいた姿が今も鮮明に思い出されます。

私が看護師になってから30年経とうとしています。今も臨床で出会った患者様のことを覚えていて、あの時ああすれば、こうすればと詮なきことを思ったりします。うまくいかないことや自分の力のなさが嫌になり、何もかもがうまくいかないように感じることもありました。でもその思いの1つ1つが、自分の力になっていることを、はっきりと感じています。今は毎日を過ごすことで精一杯かもしれませんが、たまには大学に話をしに来てください。大学は卒業したら終わりではなく、皆さんのこれからの長い人生をサポートしていけるような存在になっていければと思っています。

四日市看護医療 大学での7年目 を迎えて

小笠原 ゆかり 准教授



私は、開学1年目から四日市看護医療大学で基礎看護学を担当させていただいております。開学当時、保育園の年少だった息子も小学5年生となり、私よりも身長が高くなり大きく成長しました。卒業生の皆さんも、それぞれの職場で生き生きと活躍されていることと思います。今、開学1年目のことを振り返ると教員も学生も右も左もわからないまま、とにかく教員と学生が共に前を向き一歩一歩前に進んでいったように思います。その時のたくさんの経験が、今の四日市看護医療大学の私自身の原動力になっています。

1年生の4月からとても初々しかった皆さんと一緒に「看護」について、講義や演習を通して学んできたことをとても懐かしく思います。血圧測定の実験や清拭や足浴などの技術試験に向けて一生懸命練習している姿が今でも思い出されます。また1年生の基礎看護学実習Iにおいては、初めて受けもち患者さんを担当しコミュニケーションや援助を通して看護の楽しさを学びましたね。

あれから6年が経ちました。今では多くの卒業生たちと実習で出会うと「先生！」と声をかけてくれたり、しっかりとした様子で看護をしている姿を見ると本当に嬉しく思います。皆さんが医療の現場でますます看護職として活躍することを心より期待しております。

大学の現況

平成19年4月に開学をした本学も今年で7年目を迎えました。現在（平成25年10月1日現在）、1年生115名、2年生119名、3年生116名、4年生120名、合計470名の学部生が在籍しています。

これまでに、306名が社会へ巣立ち、地域社会の医療ニーズに対して具体的に応え始めています。

現在の大学は、日本の将来を担う有為な人材の育成という社会からの要請に応えるために、その教育のあり方について大きな変革を求められています。平成24年度より新カリキュラムを適用したのもそのうちのひとつといえます。

今後も高等教育機関としての使命を果たすよう最大限の努力をしていきます。

平成23年4月 大学院開設

平成23年4月に大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）を開設しました。現在（平成25年10月1日現在）、1年生7名、2年生16名、合計23名の大学院生が在籍しています。平成25年3月には、1期生となる5名の修了生を輩出しました。

また、平成25年3月には実践看護学領域の急性看護学専門看護師（CNS）コースが、一般社団法人日本看護系大学協議会より三重県内では初めてクリティカルケア看護分野の専門看護師教育課程（26単位）として認定されました。

この課程を修了し、専門看護師認定審査に合格すると、急性・重症患者看護専門看護師の資格が与えられます。

学長の退任・就任

開学時より、惜しめないご尽力をされ、多大なるご功績を残された河野啓子初代学長に代わり、平成25年4月1日より、丸山康人新学長（前副学長）が就任されました。

なお、河野先生は、四日市看護医療大学名誉学長として表彰されています。



新学長 丸山 康人

新任教員

<平成23年4月>

藤村龍子教授(成人)、塚越フミエ教授(成人)、中島通子教授(母性)、畑中純子准教授(地域)、高山直子准教授(基礎)、小松美砂准教授(老年)、押本由美講師(基礎)、大久保仁司講師(成人)、飯田加寿子講師(小児)、小寺直美助教(成人)

<平成24年4月>

小畑俊男教授(教養)、伊藤薫准教授(地域)

<平成24年9月>

見屋野仁美助手

<平成25年4月>

水野正延教授(精神)、久米龍子教授(基礎)、福原隆子教授(成人)、大山真貴子准教授(成人)、石川康代助教(母性)

<平成25年6月>

別所史子講師(小児)

退任教員

<平成23年3月>

青野淳子教授(教養)、中村喜美子教授(地域)、草刈淳子教授(看護管理)、浅野妙子准教授(基礎)、荻野朋子講師(老年)、中島千里講師(基礎)、高橋悦子助教(地域)、魚住郁子助教(成人)

<平成24年3月>

赤井由紀子教授(母性)、福田弘子助手

<平成25年3月>

藤村龍子教授(成人)、塚越フミエ教授(成人)、濱畑章子教授(老年)、近藤信子教授(精神)、内藤雅子教授(老年)、山崎正人教授(教養)、高山直子准教授(基礎)、岩本淳子准教授(成人)、飯田加寿子講師(小児)

第7回 よんよん祭

10月26日(土) 27日(日)

今年度で7回目を迎えます本学大学祭は、「よんよん祭」として昨年度と同様に四日市大学と合同で10月26日、27日に行われます。今年度のテーマは「HUMAN MAGIC」。23もの模擬店の出店（内本学5店舗）もある他、小さな子供たちを対象とした緑日形式の「ちびよん」も開催されます。大学祭実行委員一同、皆様楽しんでいただけるよう準備をしております。OB・OGの皆さまのご来場をお待ちしています。

■LIVE

レディオキューブ（FM三重）公開録音

ケラケラ スペシャルライブ INよんよん祭

日時 2013年10月26日（土） 14:00～ 場所 3号館



写真は昨年度の様子

※当日はJR/近鉄富田駅より無料の直通バスが運行しております。詳しくは本学HPよりご確認ください。



卒業生からのメッセージ

中村明日香（平成23年度卒業）

看護師として働き始めて1年半が経ち、仕事にも慣れ、できることも少しずつ増えてきています。まだまだ不安なことやわからないこともあり、日々勉強という感じですが毎日充実しています。私は外科病棟で働いていますが、手術を終え回復していく過程はとても展開が早いです。今まで介助の必要だった患者さんが自立していったりする姿や、元気に退院していく姿を見ることがとても嬉しいし、私のやりがいにもなっています。

大学生活は、勉強に実習と学年が上がるに連れて忙しさは増していきましたが、大学で過ごした4年間はとても充実していました。3年生から始まる実習は本当に大変で辛いこともありました。でも、一緒に頑張って支えてくれる友達・先生がいたから無事に実習を終えることができました。先輩・後輩との交流もあり、気軽に話せる先生もたくさんいるのですごく楽しい学校です。みなさんにも是非この大学で素敵な学生生活を送っていただきたいです。

中筋翔子（平成23年度卒業）

四日市看護医療大学を卒業し、助産師として働き始めて早1年半が経ちました。1年目では業務を覚えることだけで必死で、指導案を作成したり、研修の度にレポートを提出したり、いつも何かに追われていました。2年目になっても指導案作成や院外研修に参加するなど、忙しい日々を送っています。大変なことや辛いこともありますが、職場環境が良いこと、少し余裕が出てきたことから、楽しい時間もたくさんあり、有意義に働いています。私が働いている病棟に来る実習生の皆さんが頑張っている姿を見て、私自身が実習で学んだこと、指導を受けたこと、実習メンバーのことなど、印象に残っている場面が頭に浮かび、とても懐かしく感じています。その懐かしさの中で、楽しい大学生活、厳しい実習があったからこそ、今の自分があるのだと感じ、周りの応援していただいた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんは、これから実習、国家試験を控えています。今までやってきたことを信じて頑張ってくださいと思います。そして、同じ仲間として働けることを、心待ちにしています。

決算報告書

（平成22年4月1日～
平成25年3月31日）

収入の部	費用	決算	備考
会費		3,720,000	平成22年度卒業生（124名分）
		3,000,000	平成23年度卒業生（100名分）
		2,490,000	平成24年度卒業生（83名分）
雑収入		1,500	利息
計		9,211,500	

支出の部	費用	決算	備考
会費		61,315	暁学園同窓会費（平成22年度）
		50,815	暁学園同窓会費（平成23年度）
		41,815	暁学園同窓会費（平成24年度）
卒業記念品		183,915	平成23年度（電動歯ブラシ、花）
		130,631	平成24年度（携帯マグ、花）
		105,868	平成25年度（携帯マグ、花）
計		574,359	

同窓会役員

会長 近藤あおい（平成22年度卒業） 書記 北森 史佳（平成24年度卒業）
副会長 葛谷 直樹（平成23年度卒業） 監査 中村明日香（平成23年度卒業）
会計 小嶋 麻里（平成22年度卒業）

編集後記

同窓会副会長 葛谷 直樹（平成23年度卒業）

今、私たち医療従事者には、自然災害を始め高齢化社会による介護の現状、医療の現場では介護と看護の一体化がゆくゆくは訪れるという数多くの課題が迫っている。そのとき一人一人が医療従事者としての自覚と責任を持ち行動できるようになっていきたい。その数多くの課題に直面したとき仲間との繋がりはとても重要になってくる。私たちの同窓会という場が常に私たちの大学を一つにし、仲間との繋がりを実感できる機会になれば幸いです。今後も四日市看護医療大学の発展を祈って編集後記とさせていただきます。